

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	8
1. 理念の共有		1
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		2
5. 人材の育成と支援		0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		5
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		6
1. その人らしい暮らしの支援		4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		20

事業所番号	1492900160
法人名	株式会社ミュー
事業所名	オーババーズセキDuo
訪問調査日	平成27年9月25日
評価確定日	平成27年11月30日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492900160	事業の開始年月日	平成25年11月1日	
		指定年月日	平成25年11月1日	
法人名	株式会社ミュー			
事業所名	オーババーズセキDUO			
所在地	(243-0015)			
	神奈川県厚木市妻田西3-22-18			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成27年9月15日	評価結果 市町村受理日	平成27年12月1日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成27年9月25日	評価機関 評価決定日	平成27年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

①このホームは、株式会社ミューの経営です。株式会社ミューは平成9年、定員18名の「みどりの丘厚木」(高齢者住宅)開設からスタートし、現在は厚木の地にみどりの丘グループとして、老人ホーム5施設、グループホーム2施設、小規模多機能型居宅介護事業所1施設、シェアハウス1施設、障がい者就労支援施設1施設を運営し、関連施設として、社会福祉法人みどり会の経営する保育園が2園、NPO法人たいよう倶楽部が経営する学童保育1園があり、さらに、NPO法人KOTOBUKI倶楽部を加えた一大福祉サービス組織を形成しています。みどりの丘グループは、今年のグループのメッセージとして「あつぎの力(地から)」(ATUGI Power & From ATUGI)を定め、“地域で力を発揮し、地域に力を返す、どんな場面でも自分の生活した地域で生き活きと暮らすこと”を応援するため、全施設一丸となって取り組みを展開しています。このホームは小田急本厚木駅からバスで10分、徒歩5程度分の住宅地の中にあり、平成25年11月に2ユニットのグループホームと、小規模多機能型居宅介護事業所を併設して開設されました。建物はバリアフリーで、広い玄関と見通しの良い階段が設えられ、利用者が寂しさを感じないような、リビング、廊下、ダイニング、事務スペースを兼ねた広々とした空間と明るいスペースは、オーババーズセキでの実績とノウハウを加え、さらに、より良い改善が活かされた設計となっています。利用者にも日常の活動を一緒に参加してもらい、一緒に楽しく生活することを心掛けています。

②みどりの丘グループでは、施設共通の教育班があり、職員のキャリアアップに力を入れています。職員採用時点で新入社員研修を行い、配属先でOJTによる個別の受け入れ研修を実施しています。職員全体のボトムアップを図るため、月1回、グループ全体で合同勉強会を行っています。グループホーム内ではケア会議の中で時間を設け、利用者個々に関する具体的な研修を進めています。外部研修では、厚木市の実務者研修、管理者研修に該当する職員は極力、参加を勧めています。また、東名厚木病院の定期的な研修に参加し、嚥下、骨折、認知症等介護に直結した医学知識を身に着けるように研鑽し、日々の介護に生かしています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	オーババーズセキDUO
ユニット名	1F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度よりグループホームの地域で担うべき役割を理念で掲げ、わかりやすいメッセージとして伝える努力をした。「あつぎの力（地から）」と称し地域で力を発揮し地域に力を返す、どんな場面でも自分の生活した地域で生き活きと暮らすことを応援するという理念を掲げている。	今年度よりグループホームの地域で担うべき役割を理念で掲げ、わかりやすいメッセージとして「あつぎの力（地から）」（ATUGI Power & From ATUGI）を定め、地域で力を発揮し、地域に力を返す、どんな場面でも自分の生活した地域で生き活きと暮らすことを応援するため、グループで一丸となって取り組みを展開しており、グループホームもその一翼を担って活動を進めています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所本体が厚木で18年間介護サービスを実施している経緯からも地域の中に根差して活動している。防災や様々な点からも地域と一体的な活動を常に行っている。同じ地域に関連の保育園2か所、学童保育、障がい支援事業所等多世代の交流が盛んである。	みどりの丘グループが厚木で18年間介護サービスを展開し、地域に根差した活動が来ています。同じ地域に関連の保育園2か所、学童保育、障がい支援事業所等、幅広く貢献が来ています。自治会に加入し、自治会の行事（盆踊り・防災訓練等）への協力体制も確立しています。ホームの行事には地域の方やご家族をお招きしています。流しそうめんなどは行事として各施設を巡回して実施しています。運動会は「心に響く瞬間」をテーマとして、コーラス隊、ファッションショーなどを盛大に行っています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症の介護について個別の相談を受けたりしている。イベント的な企画はしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催している会議には地域のかた、ご家族の参加を頂き、必須報告事項として入居状況や活動内容報告等毎回十分な話し合いを行っている。また、様々な意見を頂き実践に取り入れているケースも多い。	運営推進会議は、2カ月に一度定期的開催しています。現状では市役所、地域包括支援センター及び家族で行っており、自治会長・民生委員の参加はまだ実現していません。利用者の状況、行事毎の報告、職員の研修状況の他、その時々検討事項を加えて討議し、その結果を利用者へのサービスに反映させています。特に、ご家族のメンバーからの意見を運営に反映したいと考えています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に報告、相談を行っている。また、保険者である担当者が運営推進委員になっており、状況の把握をしてもらっている。	厚木市の介護保険課とは、日頃の連絡事項で連絡を取り合っており、運営推進会議にも参加してもらい、状況を伝える等、連携を図っています。保険者である担当者が運営推進会議委員になっており、状況の把握をもらっています。地域包括支援センターからも連絡や案内を頂き、連携をもっています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠等に関しては夜間の外からの安全を保つため以外に行っていない。施設内の個室は安全のために施錠がない。ただし認知症ゆえの安全意識の低下に関しては、常に職員の視界のなかにいてもらうよう声掛けや、環境設定を行っていくようにしている。	身体拘束については常に話し合い、安全との関連で検討しています。例えば、車いすから立ち上がり、落下骨折の恐れが非常に強いケースでは、車いす付属のベルトではなく、布で作ったものを洋服を着かえるような形で使うなど、ご家族と相談して了解を得て行ったケースがありました。玄関等の施錠に関しては行っていません。認知症ゆえの安全意識の低下に関しては、声掛けや、環境設定に配慮し、安全の確保に努めています。	今後の継続	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員の意識向上のための研修は施設代表スタッフが法人全体の研修に参加し、それを持ち帰り、話し合いを持ち、また、法人の研修部会に返すという循環型の研修を行っている。現場の職員の意識やストレス、身体状況の把握に法人全体で取り組んでいる。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に個々のケースについて関係者との話し合いを持っている。その経過や結果についてケア会議等で話し合いを持ち、ケースごとの詳細を理解することで、制度の理解や学びにつなげている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の説明から、入居後に至るまで様々な場面で丁寧に説明を重ね、疑問や不安の解決に努力している。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は常に話せる環境を作る努力をしている。利用者の気持ちや家族とのコミュニケーションは日常的に取れており、特に管理者が家族と話をする時間はすべての利用者家族と十分作れている。	ご家族は良く訪問してもらっており、意見や要望は来訪時に聴き、常に「話せる環境」作りに努めています。特に、集まりの多いイベントの機会には意見を伺うようにしています。利用者の気持ちの把握や、家族とのコミュニケーションについては、日常的に図られており、管理者は全ての利用者家族と、万遍なく話をする時間が持てるよう努めています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人代表は常に現場の状況を把握すべく巡回しており、職員との交流を図っている。管理者は細かい意見を取り上げ法人における会議に出席時、常に報告ができています。新人の職員の運営に関する新しい提案や意見も積極的に法人に報告し、運営に客観性を持てるようにしている。	法人代表は常に巡回して現場の状況を把握し、職員との交流を図っています。管理者は年1回の人事考課を本部に提出すると共に、細かい意見をも法人の会議時に報告し、運営の客観性に役立てています。また、新人職員の提案や意見も、積極的に法人に報告しています。忘年会には外部の来賓もあり、代表が出席して方針を周知し、職員へ労いの言葉を伝えています。	今後の継続	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、管理者や職員の勤務情報を把握したうえで、個別の職員面談や理念に即した介護がやりがいとともにもっているかを常に注意している。また、具体的な職場環境を整えるべく、問題点の抽出を管理者に依頼している。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	厚木市のキャリアアップ制度の利用や法人内の共済制度を利用した資格取得の推進を行っている。また、個人の希望や意欲に合わせたアドバイスにより大学の年間通学や認知症の実践者研修や管理者研修等に積極的な参加を図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	厚木の介護保険事業者連絡会やGH協会に所属し、情報交換や学会への参加等を積極的に取り組んでいる。また、法人代表が認知症の家族の会等組織に参加し、家族の気持ちや若年性の認知症の取り組み等の情報交換を行っている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談から、様々な情報の聞き取りと家族本人の面談と回数を重ね、安心して入居してもらえるような関係づくりを目指している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては共感を持って一緒に不安や困りごとを解決している姿勢を持って対応している。特に入居後への不安や経済的な問題等、経験上想定出来る不安に関しては丁寧に説明をすることで、信頼関係を築く一つになっていると実感している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際しては管理者が対応の窓口として意見の集約、見極めを行い家族や本人の希望を含めて各分野のスタッフ（医療・看護・食事提供・事務）とミーティングを持ち方向性の確認を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中でそれぞれが存在感を持ち役割を持つことで、「与え合う関係」を作っている。介護を受ける場面が多くある利用者でもその人から与えられる場面がその何倍もあることも少なくない。この考え方が法人の基本理念にあると思っている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪が多くその都度話をする時間を多くとっている。家族もセキの運営の応援をしてくれ、協働的な見地から関係性を作れていると考えている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の状態にもよるが、少なくとも家族や友人が訪ねてきたときに「よその家」を訪れるような感じを持たないように雰囲気を作るよう注意している。どんな時も入居者の家を訪ねている印象がもてるような居室のづくりや応接室のづくりを考えている。	家族や友人の来訪時には、「よその家」を訪れるような感じを与えないよう、雰囲気作りに配慮しています。入居者は地元の方が多く、土地勘や地域とのつながりもあり、友人、カラオケ仲間、民謡仲間等が訪ねて来てくださいます。どんな時も「入居者の家」を訪ねている印象が持てるような居室の作りや応接室の作りを考えて雰囲気作りに努めています。8月の厚木花火大会はアイスクリームを食べながらみなさんと観賞しました。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どこにも自分の居場所があり、どこにいても安心感のある関係性を持つよう職員の介在の仕方を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も折に触れて訪問をしてくれる家族も多くおり、「ここに来るとまた、会える気がする」と言ってくれる家族もいる。命日等には家族が職員に会いに来てくれることもある。ご逝去後に単身になってしまった家族の相談になっていることも多い。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活の状況からなるべく大きく変わらないよう気をつけ、関係性を作り上げたうえで、本人の気持ちや身体状況に合わせて検討していくようにしている。	利用者本人の意向を大切にし、生活を支援して行く心がけています。今までの生活の状況からなるべく大きく変わらないよう配慮し、利用者との信頼関係を築くよう努め、本人の気持ちや身体状況に応じて検討するよう努めています。ホームでは、利用者の「想い」を記載したノートを永久保存版として大切に保管し、利用者が発した言葉をそのまま文集風（背景等の注釈を付けて）にまとめる取り組みを行っています。ノートは職員間で共有し、ご家族にも見て頂いています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの経緯を丁寧に聞き取り、入居に至る問題点や優先すべき問題を整理して取り組んで行くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを丁寧に行い、その方の有する力を正確に理解するようにつとめている。それにあたり必ず多職種で話し合いを持ち、あらゆる角度からの意見を集約するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンスを多職種で行い、それを職員一人一人にフィードバックして意見を求める循環をシステム化してい。あらゆる角度からの意見と本人や家族の希望を加え課題の整理と計画性を持った立案を行っている。	定期的なケアカンファレンスを多職種（介護職員の他、医師、看護師、ケアマネ、厨房の職員）で行い、それを職員一人一人にフィードバックして意見を求める循環をシステム化しています。管理者はご家族とコミュニケーションを取り、希望や思いを十分聴き取り、希望を加え、課題を整理してモニタリングを実施しながら介護計画を立案しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況や特別なことを記録にし、だれでもが理解できるような記録を個別に作成している。また、食事や排せつ、身体状況等目的別の記録も他に設け、情報の取得に利便性を持つ記録の方法を導入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム全体としてのサービスと個別サービスを日常に組み込み、その時のニーズに合わせた組み立てを管理者やリーダーの判断で行っている場合がある。また、法人としての取り組みや地域との連携の中で生まれるサービスを多様に取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や子ども会との連携をとりそれぞれの場面で協力的な取り組みを行っている。また、施設の行事に地域の方を招待して入居者が振る舞いの係をしたり、お互いの関係を地域で作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診時は特別なことが無い限り施設の看護師と介護士が立ち合い日頃の状況を伝える。加えて医療に対する考え方についてや、特別な状況が発生した時には、その時に応じ面談の機会を設け、話し合いを持っている。特に看取りに関しては慎重に方向性を共有している。	月2回、内科医の往診と訪問歯科の受診の際は、看護師と職員が立ち会い、日頃の個々の利用者の状況を伝え、ご家族に結果を報告しています。医療に対する考え方についてや、特別な状況が発生した際は、必要に応じて面談の機会を設け、話し合いを持っています。職員である看護師は、毎日、利用者の様子をチェックしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日定期的に訪問する看護師と介護士の情報共有を図っている。また、アクシデントが起こった場合は、連携を密に本人の意思確認や家族への説明等、役割を担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居が決まった際には往診が開始される前に必ず通院をして基本内科検診を実施し、心身の状態を共有するようにしている。また、日頃は毎日の状態をメールで主治医に報告し、緊急性の高い場合の対応を協議している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りまで行うことを説明し、その段階での考え方等を確認している。また、入居中に考えが変わったり、関係する家族の意見が変わった場合も含めて随時意思の確認等を行っている。	入居時に口頭で、看取りまで行うことを説明し、その段階での考え方等を確認しています。内容によってかかりつけ医療機関とも緊急時や医療的な処置の方向性の確認を行っています。入居中に考えが変わったり、関係する家族の意見が変わった場合も含め随時、意思の確認等を行っています。看取りに近づいた場合には意向を再度確認しています。（この場合も特に同意書は取らず、お互いの約束の中で行っています）看取り介護は、当然のこととして管理者・職員共に共通認識が確立しており、これまでも実績があります。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間に一度は消防署の救急救命講習を受講し、緊急時の対応の学習をしている。また、日ごろから、看護師や社内研修を通して急変の見分け方や本人の日常との違いを観察する指標を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署に通知して避難訓練や消火訓練目的ごとの訓練を実施している。年間を地震、台風、雪の自然災害想定し、マニュアルに法り実地訓練を行っているのと同時に毎月危険個所の点検等役割を持って行っている。	定期的に消防署に通知し、避難訓練や消火訓練など目的ごとの訓練を実施しています。年間、地震、台風、雪の自然災害想定し、マニュアルに法り実地訓練を実施しています。グループとして、第1順位、第2順位の防災委員を決めています。備蓄はコンテナに準備し、看護師も在籍しているので近隣の高齢者の避難場所の提供として提案しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々人の生活背景や経験により価値観が異なること的前提を持って、その人の一番なじむ環境を保つように努力している。	入居者個々の生活背景や経験を踏まえ、価値観が異なることを認識し、その方の最も馴染む環境を保つように努めています。これまでその方が使用してきた言葉等を大切に、日常のコミュニケーションに取り入れています。利用者への呼びかけは、基本的には「さん」付けにしています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけや話し方が断定的にならず、入居者が自分の言葉で話ができる雰囲気を作るように考えている。特にゆっくりとわかりやすい話しかけができるよう、問いかけられた人が率直に自分の意見が言えるような支援をしていきたいと思う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなプログラムはあるが入居者同士が自発性を持ったグループワークや個々の活動ができるような空間や雰囲気を作るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見だしなみには特に配慮している。家族からはいつもきれいにしてもらっていると評価を頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の準備は難しいが、おやつやお茶の支度は入居者とともにやる事が多い。特におやつに関してはお隣の施設の分を作っておすそ分けしたり、頂き物をしたり、交流も楽しんでいる。	法人で調理専門のNPO法人を有し、専門の厨房担当者が調理を行い、各事業所で配膳(職員が盛り付け)する体制になっています。職員は食事準備の時間をケアの充実に当て、ゆとりある対応ができています。利用者は食事の手伝いはできませんが、おやつの中にはたい焼きなど一緒に手伝ってもらっています。おやつはお隣の施設の分を作っておすそ分けしたり、頂き物をしたりの交流も楽しんでいます。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事と水分の摂取量の把握は確実にしている。特に心配がある場合は看護師と調整して補助栄養の導入や水分の摂取に関する工夫を早期に実施するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食欠かさず行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時におむつ対応の方でも定時誘導や声掛けによっておむつの使用率を減らしていく。また、どうしてもベッド上の時間が長くなっていく入居者に対しても、看護師と連携をして皮膚状態の悪化等無いよう十分な注意をしている。	排泄チェック表は毎日、観察後に記入を行い、看護師と情報の共有を図り、声掛けによるトイレ誘導でトイレでの排泄支援を行っています。入居時におむつ対応の方でも定時誘導や声掛けによっておむつの使用率を減らす努力をしています。また、ベッド上の時間が長くなっていく入居者に対しては、看護師と連携をして皮膚状態の悪化等が無いよう十分な注意と配慮を行っています。また、同性介助、排便チェック、下剤の使用状況など、常に心掛けて丁寧に支援しています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄に関しては特に注意をして、観察している。また、毎日の看護師の巡回でも排泄チェック表を必ず見て、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	気候や本人の都合など様々な状況を考えて入浴の介助をしている。特に気分のむらにより入浴の実施が困難なケースにおいては時間を決めず入浴をしている。やがて徐々に定時の入浴に移行できている。	入浴については、その日の気候や本人の都合など様々な状況を考慮して介助しています。特に、気分のむらにより入浴の実施が困難なケースにおいては、時間を決めず、タイミングを見計らって入浴を勧めています。同性介助も行っており、徐々に定時の入浴に移行できる等、個々に応じた支援を行っています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に消灯時間を儲けず、本人の睡眠ペースに合わせた就寝介助を行っている。また、夜間の不眠等に対しても本人の体力的な問題以外の点は特に大きく取り上げず、対応しえている。			
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては看護師の管理のもと主治医との連絡を持って微調整を含めた支援をしている。また、服薬内容の変更等は必ず可視化した伝達方法似て慎重に行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で目標を持ち、目標に向かって達成計画をたてその人ごとに役割を担ってもらっている。法人としての行事がたくさんあり、その参加のために日頃の活動はかなり忙しくなっているが皆さんは楽しんで取り組んでもらっている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の外出やグループでの外出、全員での参加行事等出かける機会が多いと思う。特に食事を伴う外出は人気がある。年度の初めに年間の計画をたてる際には利用者が実行委員として参加いただき希望を聞きながら立案することもある。	個人の外出やグループでの外出、全員での参加行事等に出かける機会が多く設けています。特に、食事を伴う外出は利用者に人気があり、回転寿司、ラーメンなどに出かけています。年度初めに年間の外出計画を立案し、日帰り温泉や、お花見等に出かけています。利用者が実行委員として参加することもあり、希望を取り入れています。		今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出してお金を使える方ばかりでないために定期的に訪問駄菓子屋が関連の障がい支援事業所からきている。そこでは通貨を作成し、自分たちで買い物をする模擬ショッピングも行っている。計算をして買い物をすることを楽しみにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じた支援をしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくのんびりとした我が家のような空間を提供していると思っている。	建物はバリアフリーで、広い玄関と見通しの良い階段が設えられ、利用者が寂しさを感じないような、リビング、廊下、ダイニング、事務スペースを兼ねた広々とした空間と明るいスペースは、オーバークセキでの実績とノウハウを加え、さらに、より良い改善が活かされた設計となっています。居室を出るとすぐに職員や他の入居者が居て、仲間に入れる構造になっており、独りぼっち感を感じさせない環境作りがされています。明るくのんびりとした「我が家」のような空間を提供しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナーを使ったりテーブルの配置によりいくつかの空間を作っている。利用者は自分の寛ぐ空間を選んで過ごしている。また、目的によって（作業的なこと）自分の行くべきところを理解して、選択している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各人自分の大切な物を持ち込んでそれぞれの我が家として過ごしている。	それぞれ自分の大切な物を持ち込んでもらい、「我が家」として過ごしています。特に整理整頓に配慮し、過ごしやすい空間になるよう配慮しています。また、朝・夕のメリハリをつけるために日中と夜間の整容はきちんと区別するように配慮し、普通の家庭を実現しています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はお家の感覚を大切にするために安全を優先してはいない。また、段差を解消することを一番に考えず、住み慣れた中での身体の上手な使い方ができるように考えている。			

目 標 達 成 計 画

事業所

オーババースセキDUO

作成日

平成27年9月25日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	認知症の原因や疾患別のケアの方法等日々変わっていく方法論をきちんときちんと学習し職員が共有するシステムの構築	認知症にかかる多職種学習チームを発足させケースごとの検証を深めていく	今年度4月より発足した研究会をより充実させる	1年間
2	14	情報の収集と活用	若年性認知症と高齢の認知症のケアの違いに関する学習	各研修会や家族の会等への参加とテーマを決めた学習の取り組み	1年間
3	53	男女の居室の配置	男女をフロアごとに分ける	家族の理解や本人の了解を丁寧に重ねる	2年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	オーババーズセキDUO
ユニット名	2F

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度よりグループホームの地域で担うべき役割を理念で掲げ、わかりやすいメッセージとして伝える努力をした。「あつぎの力（地から）」と称し地域で力を発揮し地域に力を返す、どんな場面でも自分の生活した地域で生き生きと暮らすことを応援するという理念を掲げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所本体が厚木で18年間介護サービスを実施している経緯からも地域の中に根差して活動している。防災や様々な点からも地域と一体的な活動を常に行っている。同じ地域に関連の保育園2か所、学童保育、障がい支援事業所等多世代の交流が盛んである。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方から認知症の介護について個別の相談を受けたりしている。イベント的な企画はしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催している会議には地域のかた、ご家族の参加を頂き、必須報告事項として入居状況や活動内容報告等毎回十分な話し合いを行っている。また、様々な意見を頂き実践に取り入れているケースも多い。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に報告、相談を行っている。また、保険者である担当者が運営推進委員になっており、状況の把握をしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠等に関しては夜間の外からの安全を保つため以外に行っていない。施設内の個室は安全のために施錠がない。ただし認知症ゆえの安全意識の低下に関しては、常に職員の視界のなかにもらうよう声掛けや、環境設定を行っていくようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識向上のための研修は施設代表スタッフが法人全体の研修に参加し、それを持ち帰り、話し合いを持ち、また、法人の研修部会に返すという循環型の研修を行っている。現場の職員の意識やストレス、身体状況の把握に法人全体で取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が主に個々のケースについて関係者との話し合いを持っている。その経過や結果についてケア会議等で話し合いを持ち、ケースごとの詳細を理解することで、制度の理解や学びにつなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の説明から、入居後に至るまで様々な場面で丁寧に説明を重ね、疑問や不安の解決に努力している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望は常に話せる環境を作る努力をしている。利用者の気持ちや家族とのコミュニケーションは日常的に取れており、特に管理者が家族と話をする時間はすべての利用者家族と十分作れている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人代表は常に現場の状況を把握すべく巡回しており、職員との交流を図っている。管理者は細かい意見を取り上げ法人における会議に出席時、常に報告ができています。新人の職員の運営に関する新しい提案や意見も積極的に法人に報告し、運営に客観性を持てるようにしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、管理者や職員の勤務情報を把握したうえで、個別の職員面談や理念に即した介護がやりがいとともにもっているかを常に注意している。また、具体的な職場環境を整えるべく、問題点の抽出を管理者に依頼している。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	厚木市のキャリアアップ制度の利用や法人内の共済制度を利用した資格取得の推進を行っている。また、個人の希望や意欲に合わせたアドバイスにより大学の年間通学や認知症の実践者研修や管理者研修等に積極的な参加を図っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	厚木の介護保険事業者連絡会やGH協会に所属し、情報交換や学会への参加等を積極的に取り組んでいる。また、法人代表が認知症の家族の会等組織に参加し、家族の気持ちや若年性の認知症の取り組み等の情報交換を行っている。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談から、様々な情報の聞き取りと家族本人の面談と回数を重ね、安心して入居してもらえるような関係づくりを目指している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては共感を持って一緒に不安や困りごとを解決している姿勢を持って対応している。特に入居後への不安や経済的な問題等、経験上想定出来る不安に関しては丁寧に説明をすることで、信頼関係を築く一つになっていると実感している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に際しては管理者が対応の窓口として意見の集約、見極めを行い家族や本人の希望を含めて各分野のスタッフ（医療・看護・食事提供・事務）とミーティングを持ち方向性の確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中でそれぞれが存在感を持ち役割を持つことで、「与え合う関係」を作っている。介護を受ける場面が多くある利用者でもその人から与えられる場面がその何倍もあることも少なくない。この考え方が法人の基本理念にあると思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪が多くその都度話をする時間を多くとっている。家族もセキの運営の応援をしてくれ、協働的な見地から関係性を作れていると考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の状態にもよるが、少なくとも家族や友人が訪ねてきたときに「よその家」を訪れるような感じを持たないように雰囲気を作るよう注意している。どんな時も入居者の家を訪ねている印象がもてるような居室のつくりや応接室のつくりを考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どこにも自分の居場所があり、どこにいても安心感のある関係性を持てるよう職員の介在の仕方を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も折に触れて訪問をしてくれる家族も多くおり、「ここに来るとまた、会える気がする」と言ってくれる家族もいる。命日等には家族が職員に会いに来てくれることもある。ご逝去後に単身になってしまった家族の相談になっていることも多い。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今までの生活の状況からなるべく大きく変わらないよう気をつけ、関係性を作り上げたうえで、本人の気持ちや身体状況に合わせて検討していくようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの経緯を丁寧に聞き取り、入居に至る問題点や優先すべき問題を整理して取り組んで行くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを丁寧に行い、その方の有する力を正確に理解するするようにつとめている。それにあたり必ず多職種で話し合いを持ち、あらゆる角度からの意見を集約するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケアカンファレンスを多職種で行い、それを職員一人一人にフィードバックして意見を求める循環をシステム化してい。あらゆる角度からの意見と本人や家族の希望を加え課題の整理と計画性を持った立案を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の状況や特別なことを記録にし、だれでもが理解できるような記録を個別に作成している。また、食事や排せつ、身体状況等目的別の記録も他に設け、情報の取得に利便性を持つ記録の方法を導入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホーム全体としてのサービスと個別サービスを日常に組み込み、その時のニーズに合わせた組み立てを管理者やリーダーの判断で行っている場合がある。また、法人としての取り組みや地域との連携の中で生まれるサービスを多様に取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や子ども会との連携をとりそれぞれの場面で協力的な取り組みを行っている。また、施設の行事に地域の方を招待して入居者が振る舞いの係をしたり、お互いの関係を地域で作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診時は特別なことが無い限り施設の看護師と介護士が立ち合い日頃の状況を伝える。加えて医療に対する考え方についてや、特別な状況が発生した時には、その時に応じ面談の機会を設け、話し合いを持っている。特に看取りに関しては慎重に方向性を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日定期的に訪問する看護師と介護士の情報共有を図っている。また、アクシデントが起こった場合は、連携を密に本人の意思確認や家族への説明等、役割を担っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居が決まった際には往診が開始される前に必ず通院をして基本内科検診を実施し、心身の状態を共有するようにしている。また、日頃は毎日の状態をメールで主治医に報告し、緊急性の高い場合の対応を協議している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りまで行うことを説明し、その段階での考え方等を確認している。また、入居中に考えが変わったり、関係する家族の意見が変わった場合も含めて随時意思の確認等を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間に一度は消防署の救急救命講習を受講し、緊急時の対応の学習をしている。また、日ごろから、看護師や社内研修を通して急変の見分け方や本人の日常との違いを観察する指標を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署に通知して避難訓練や消火訓練目的ごとの訓練を実施している。年間を地震、台風、雪の自然災害想定し、マニュアルに法り実地訓練を行っているのと同時に毎月危険個所の点検等役割を持って行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
						1
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々人の生活背景や経験により価値観が異なること的前提を持って、その人の一番なじむ環境を保つように努力している。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	問いかけや話し方が断定的にならず、入居者が自分の言葉で話ができる雰囲気を作るように考えている。特にゆっくりとわかりやすい話しかけができるよう、問いかけられた人が率直に自分の意見が言えるような支援をしていきたいと思う。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかなプログラムはあるが入居者同士が自発性を持ったグループワークや個々の活動ができるような空間や雰囲気を作るようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見だしなみには特に配慮している。家族からはいつもきれいにしてもらっていると評価を頂いている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の準備は難しいが、おやつやお茶の支度は入居者とともに行う事が多い。特におやつに関してはお隣の施設の分を作っておすそ分けしたり、頂き物をしたり、交流も楽しんでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事と水分の摂取量の把握は確実にしている。特に心配がある場合は看護師と調整して補助栄養の導入や水分の摂取に関する工夫を早期に実施するよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食欠かさず行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居時におむつ対応の方でも定時誘導や声掛けによっておむつの使用率を減らしていく。また、どうしてもベッド上の時間が長くなっていく入居者に対しても、看護師と連携をして皮膚状態の悪化等無いよう十分な注意をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄に関しては特に注意をして、観察している。また、毎日の看護師の巡回でも排泄チェック表を必ず見て、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	気候や本人の都合など様々な状況を考えて入浴の介助をしている。特に気分のむらにより入浴の実施が困難なケースにおいては時間を決めず入浴をしている。やがて徐々に定時の入浴に移行できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	特に消灯時間を儲けず、本人の睡眠ペースに合わせた就寝介助を行っている。また、夜間の不眠等に対しても本人の体力的な問題以外の点は特に大きく取り上げず、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては看護師の管理のもと主治医との連絡を持って微調整を含めた支援をしている。また、服薬内容の変更等は必ず可視化した伝達方法似て慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で目標を持ち、目標に向かって達成計画をたてその人ごとに役割を担ってもらっている。法人としての行事がたくさんあり、その参加のために日頃の活動はかなり忙しくなっているが皆さんは楽しんで取り組んでもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の外出やグループでの外出、全員での参加行事等出かける機会が多いと思う。特に食事を伴う外出は人気がある。年度の初めに年間の計画をたてる際には利用者が実行委員として参加いただき希望を聞きながら立案することもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出してお金を使える方ばかりでないために定期的に訪問駄菓子屋が関連の障がい支援事業所からきている。そこでは通貨を作成し、自分たちで買い物をする模擬ショッピングも行っている。計算をして買い物をすることを楽しみにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じた支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るくのんびりとした我が家のような空間を提供していると思っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナーを使ったりテーブルの配置によりいくつかの空間を作っている。利用者は自分の寛ぐ空間を選んで過ごしている。また、目的によって（作業的なこと）自分の行くべきところを理解して、選択している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各人自分の大切な物を持ち込んでそれぞれの我が家として過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はお家の感覚を大切にするために安全を優先してはいない。また、段差を解消することを一番に考えず、住み慣れた中での身体の上手な使い方ができるように考えている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

オーババースセキDUO

作成日

平成27年9月25日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	認知症の原因や疾患別のケアの方法等日々変わっていく方法論をきちんときちんと学習し職員が共有するシステムの構築	認知症にかかる多職種学習チームを発足させケースごとの検証を深めていく	今年度4月より発足した研究会をより充実させる	1年間
2	14	情報の収集と活用	若年性認知症と高齢の認知症のケアの違いに関する学習	各研修会や家族の会等への参加とテーマを決めた学習の取り組み	1年間
3	53	男女の居室の配置	男女をフロアごとに分ける	家族の理解や本人の了解を丁寧に重ねる	2年間

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。